

暗がりに響く音色

巡礼文化発信へ演奏会

観音正寺

天台系単立の観音正寺
(岡村遍導住職 滋賀県近江
八幡市)は18日、スペイン・



観音正寺で行われた川上ミネさんのピアノコンサート

サンティアゴ在住のピアニスト、川上ミネさんを招いたコンサートを開いた。聖徳太子1400年御遠忌大法会と、西国三十三所観音巡礼とサンティアゴ巡礼路の友好締結、老蘇・安土ふるさとづくり地域活性化準備委員会発足を記念。87人が訪れ、暗がりの堂内で響く音色を堪能した。

川上さんは、今年4月に実現した両巡礼の友好締結の立役者。コンサートでは、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂のミサ曲に今年採用された川上さんの曲「星の原野」をアレンジし、観音正寺の豊かな自然を表現した。岡村住職が唱

える声明とピアノのアンサンブルも行い、観音正寺の伝説を表現した曲「近江の太子」なども演奏した。

岡村住職は「人は争いを繰り返しているが、2本の足は命を奪うためではなく、歩むためにある。体と命を支えてくれていることを巡礼で感じてほしい」と語り、巡礼ファンを公言する川上さんは「すがりつきたい思いを抱える中で歩くと気付きがある」と話した。開催に際しては、地域の特色を知ってもらおうと、郷土料理店「魚石」店主の瀬海悠一朗さんらが、琵琶湖固有種「うろり」(学名:ピワヨシノボリ)の山椒煮など、地元の特産品を用いたコース料理を振る舞った。大阪市天王寺区の後藤浩美さん(55)は「一つ一つが丁寧に料理され、優しい味」と舌鼓を打った。